

関係各位

愛知県農業総合試験場長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和8年度病害虫発生予報第2号（5月）
令和8年度病害虫発生予察注意報第2号

担当 環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-41-9513
ファックス 0561-63-7820

令和8年度病害虫発生予報第2号（5月）

令和8年4月30日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	やや少ない	県全域	前年の穂いもち発生量はやや少ない	—
	イネミズゾウムシ	やや多い	県全域	前年6月下旬の本田発生量及び前年の予察灯における誘殺数はやや多い	+
ムギ類	うどんこ病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	赤かび病	やや多い	県全域	4月下旬の発生量は平年並 前年5月下旬の発生量は平年並 開花期以降に連続した降雨があった	± ± +
	さび病類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±

・防除対策

[イネ・イネミズゾウムシ]

アレス箱粒剤、リディア箱粒剤などを用いて箱施薬を行いましょう。

[ムギ類・赤かび病]

4月16日発表の「令和8年度病害虫発生予察注意報第1号」を参考にしてください。

・留意事項

スクミリンゴガイの発生が確認されているほ場では、移植同時または移植直後の薬剤散布や浅水管理等の防除対策を実施しましょう。詳細は、4月6日発表の「スクミリンゴガイ情報第1号（水稻）」を参考にしてください。

ツマジロクサヨトウについては、これまでに本県への飛来に適した気象条件が3回（4月4日、7日、10日）出現しています。飼料用トウモロコシ等においては、生育初期に食害されると被害が大きくなるため、発生状況に注意しましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや少ない	県全域	3月の越年発病葉率はやや低い	—
	ミカンハダニ	やや多い	県全域	3月上旬の発生量が多い 4月の降水量は多い 5月の気温は高い	＋ － ＋
ナシ	黒星病	やや多い	県全域	4月上旬の花そう基部の発病率は 平年並 4月下旬の発病葉率はやや高い 5月の降水量はほぼ平年並	± ＋ ±
	アブラムシ類	平年並	県全域	4月下旬の発生量はやや少ない 5月の気温は高い	－ ＋
モモ	黒星病	やや多い	県全域	4月下旬の発病枝率はやや高い 5月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	せん孔細菌病	やや多い	県全域	4月下旬の発病枝率はやや高い 5月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	ナシヒメシンクイ	多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数は多い	＋
	モモハモグリガ	平年並	県全域	4月下旬現在、被害を確認して いない（平年並） フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	黒とう病	やや多い	県全域	4月下旬の発生量はやや多い 5月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	べと病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 5月の降水量はほぼ平年並	± ±
カキ	炭疽病	やや少ない	県全域	前年秋の発生量はやや少ない 5月の降水量はほぼ平年並	－ ±
	うどんこ病	やや少ない	県全域	前年秋の発生量はやや少ない	－

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	チャバネアオカメムシの越冬世代成虫密度は平年並 チャバネアオカメムシのフェロモントラップの誘殺数は平年並 5月の気温は高い	± ± +

・防除対策

[ウンシュウミカン・ミカンハダニ]

ダニオーテフロアブルなどで防除しましょう。

[ナシ・黒星病]

本日発表の「令和8年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照して下さい。

[モモ・黒星病]

ベランティーフロアブル、ナリアWDGなどで防除しましょう。

[モモ・せん孔細菌病]

バリダシン液剤5、スターナ水和剤などで防除しましょう。

[モモ・ナシヒメシンクイ]

4月6日発表の「ナシヒメシンクイ情報第1号(モモ)」を参照してください。

[ブドウ・黒とう病]

ベランティーフロアブル、ミギワ20フロアブルなどで防除しましょう。

[果樹共通・カメムシ類]

4月6日発表の「果樹カメムシ類情報第1号」を参照してください。

・留意事項

有効積算温度を利用して各種害虫の防除適期を予測しました。

チャノキイロアザミウマは表のとおりです。防除対策については4月15日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第1号」を参照してください。

表 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（4月30日計算時点）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第1世代	5/11	5/13	5/6	5/8	5/9	5/9	5/8	5/8	5/10	5/10	6/5
(前年)	5/18	5/21	5/14	5/15	5/18	5/18	5/15	5/17	5/19	5/18	6/10
前年比	7日早	8日早	8日早	7日早	9日早	9日早	7日早	9日早	9日早	8日早	5日早
第2世代	6/9	6/12	6/3	6/4	6/8	6/8	6/6	6/7	6/10	6/8	7/4

カイガラムシ類の防除については、本日発表の「ナシマルカイガラムシ情報第1号(ナシ)」及び「フジコナカイガラムシ情報第1号(カキ、ナシ、ブドウ)」を参照して下さい。

今後の気温経過で発生ピーク日が前後するため、5月中旬頃にこれらの害虫について、最新の気象データを用いた防除適期に関する情報を提供する予定です。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	べと病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の降水量はほぼ平年並	± ±
トマト (施設)	黄化葉巻病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並 4月下旬のコナジラミ類の発生量は平年並	± ±
ナス (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	ハダニ類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	アザミウマ類	多い	県全域	4月下旬の発生量は多い	+
キュウリ (施設)	べと病	やや多い	県全域	4月下旬の発生量はやや多い 5月の日照時間はほぼ平年並	+ ±
	灰色かび病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	アザミウマ類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±

・防除対策

[ナス（施設）・アザミウマ類]

4月6日発表の「アザミウマ類情報第1号（ナス・キュウリ・イチゴ）」を参考に防除しましょう。

[キュウリ（施設）・べと病]

ザンプロDMフロアブルやベトファイター顆粒水和剤などで防除しましょう。

・留意事項

キャベツやブロッコリーの黒すす病が一部地域で問題となっています。現在、一部ほ場で、葉において初期症状（黒色の小斑点）が発生しています。今後、発生が拡大するおそれがありますので、速やかに防除を行いましょ。また発病株は次作の伝染源となるため、収穫残さは速やかにすき込むかほ場外に持ち出し適切に処分しましょ。

キャベツでは、春先に気温が高くなるとコナガの成育が早くなり、発生量が増加します。発生を確認したら速やかに防除しましょ。収穫終了後は、残さを速やかにすき込みましょ。

タマネギのべと病の発生株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り適切に処分しましょ。発生を確認したほ場では、速やかに薬剤で防除しましょ。

キュウリでは、3月以降、ミナミキイロアザミウマの発生が多く、4月下旬の巡回調査では本虫が媒介するキュウリ黄化えそ病の発生がやや多い状況でした。また、トマトやキュウリの一部ほ場では、コナジラミ類やそれらが媒介するウイルス病の発生が見られます。これらのウイルス病が発生したほ場では、次作への伝染を防ぐために、栽培終了後、植物残さをほ場外に持ち出す前に施設を密閉して、媒介虫を死滅させましょ。

花き

・留意事項

キク（露地）では、白さび病の発生があるほ場では、発病葉を早めに除去するとともに、系統の異なる農薬でローテーション散布をしましょう。フェロモントラップによるオオタバコガの誘殺がやや多い状況ですので、今後の発生に注意しましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>）、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

【参考】東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台4月30日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：40% 高い：50%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%